

(別紙1)

## 自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成22年6月14日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771601974		
法人名	社会福祉法人こぼと会		
事業所名	グループホームたんぽぽ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府吹田市山田東2-31-5		
自己評価作成日	2010. 5. 11	評価結果市町村受理日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>3ユニット・デイサービス併設型というメリットを活かして、入居されているフロアだけで生活空間ではなく、入居者は、何処にいてもいいという、自由な空間に取り組んでいる。また、積極的に地域へ出かけていき、ホーム内だけで、生活が完結しないよう取り組んでいる。</p>
---

### 【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp">tp://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797番地
訪問調査日	平成22年5月26日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「いつでも、どんな時にも人として尊重され、自分の思いを大切に暮らせる。」との理念を基に、地域に密着した民主的な事業運営を行っている。地域との関わりについて、自治会や公民館・地域の小中高等学校・神社などの催しを通じた交流はもとより、地域のボランティア等との関わりを非常に大切にしている。今年から地域の消防団と協力体制を構築し、防災訓練を行う予定である。今年4月に家族会を発足し、2か月毎に開催して家族等の意見を聴取している。普段から家族等の訪問機会は多く、意見や要望は活発に出されている。出された意見等は記録し、会議等で検討し、運営に反映させている。現場職員の意見や情報を普段から管理者やユニットリーダーを中心にしっかり取り入れる姿勢があり、職員間のチームワークも良い。自己評価及び外部評価結果から出された課題については、職員が一丸となって熱心に取り組む姿勢が見られる。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況（1階せせらぎ）	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針会議を通じて、ホームとしての理念に基づいた支援・取り組みが出来るよう努めている。	「いつでも、どんな時にも人として尊重され、自分の思いを大切に暮らせる。」との理念を基に、地域に密着した民主的な事業運営を謳っている運営方針がある。そして、それらをもとに毎年職員が話し合い、各ユニットの方針を策定し、思いを共有し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ホーム行事に招いたり地域との交流に努めている。	自治会や公民館・地域の小中高等学校・神社などの催しを通じた交流はもとより、地域のボランティア等との関りを非常に大切にしている。毎年地域との新たな交流を企画したり、地域からのボランティアや見学等の申し入れは原則断らない姿勢を貫いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する協力依頼など、間接的サービス向上に運営推進会議を活用している。	利用者・家族等や地域のさまざまな関係者が参加して、2ヶ月毎に開催している。会議では事業所の活動内容や利用者の状況、防災についての協力体制や事業所が地域で求められる役割についての意見聴取、地域の情報収集など双方向的な会議となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	吹田市の連絡部会を通じて、市の担当者と日頃から連絡を取り、関係づくりに努めている。	市担当者との懇談会を設けたり、グループホーム連絡会で意見交換や学習会を行っている。また今年度は、吹田市議会議員（9名）と市内の事業所代表者として「高齢者福祉を考える地域の集い」を開催し、意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践について学ぶ機会を通して取り組んでいる。	毎年身体拘束をしないケアについて内部研修会を実施し、職員の共通意識を図っている。各フロアを自由に行き来できるようにエレベーター、ユニットの出入り口及び中庭は開放している。玄関は内部からは押しボタン式で外出できるようにしている。	身体拘束をしないケアの実践だけではなく全般的なことであるが、研修記録やマニュアル及び利用者記録等を職員が活用しやすくするための整理・工夫が期待される。	

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な勉強会を通して学んだり、日頃のケアの中で見過ごされる事が絶対ないよう啓発に努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容に関しては、きっちりと説明を行い納得が得れるよう努めている。</p>		
10	6 <p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望が日頃から話易い関係に努め、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。</p>	<p>今年4月に家族会を発足し、2か月毎に開催して家族等の意見を聴取している。普段から家族等の訪問機会は多く、意見や要望は活発に出されている。意見等は記録し、フロア会議等で検討し、運営に反映させている。介護相談員も受け入れている。</p>	<p>普段の関わりだけでは聴取できていない意見や意向を確認できるように、利用者及び家族等へのアンケート調査や満足度調査などを活用することが期待される。</p>
11	7 <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>主任会議・毎月フロア会議を開き、その場で意見や提案を出してもらい話し合いを通し、日常の運営に反映されるよう努めている。</p>	<p>フロア会議や全体会議などで職員の意見や要望を聞いている。そして管理者が年2回個別面談を行っている。普段から管理者やユニットリーダーを中心に現場職員の意見や情報をしっかり取り入れる姿勢があり、職員間のチームワークも良い。</p>	
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個別の面談を通じ、その時々職員の抱える課題・問題に耳を傾けている。そのうえで個々にあった、提案・助言を心掛けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内・外部両方の研修の情報を提供に、積極的に参加するよう促している。</p>		

14	<p>○同業者との交流を通じた向上          代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡部会を通じて、情報交換を行いネットワークづくりに努めている。また、2010年度は学習会を行う予定。</p>		
<p><b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に事前に訪問し、聞き取りを行っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係          サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に事前に訪問し、聞き取りを行っている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援          サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居前に事前に訪問し、聞き取りを行っている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係          職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事活動では、職員は補佐役に徹するとともに、援助を要する時には、本氏の持てる力を活かすように配慮している。又、方針にも掲げ、職員間で意識の統一が図れるよう考慮している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係          職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>報告・連絡・相談を心掛け、職員だけで頑張るのではなく、ご家族のお力を借りながらご本人が安心して生活できるよう配慮している。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が面会に来られたり、年賀状や電話にて関係を途切れないよう配慮している。また、ご家族のお力を借り、馴染みの場所への外出が出来る様配慮している。	馴染みの美容室の利用や墓参りの支援、知人の訪問などつながりを継続できるための支援を行っている。また、馴染みの関係が途切れている利用者には、地域のボランティアとの交流や飲食店等の利用を通じて新しい馴染みを作っていく支援に積極的に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事席の配置に配慮したり、新たな関係の発展が期待されるよう、外出時はあえてあまり関係の良くない方同士をお誘いする機会を設けたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に数回面会に行ったり、年賀状等を通じて切れない関係に努めている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とのコミュニケーションを図る事は勿論、センター方式を利用し、情報の整理を行っている。	入居時に利用者や家族の意向を聞き取り介護計画に反映している。入居後には、普段から信頼関係の構築を優先し、日々の関りの中で思いや暮らし方の希望の把握に努めている。新たに得られた情報は申し送りや毎月のフロア会議で職員間の共有を図っている。また、傾聴ボランティアも受け入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	センター方式を利用し、情報の整理を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用し、情報の整理を行っている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族とは随時、職員間では月に一度のフロア会議にて話し合える場を設けている。</p>	<p>センター方式を使用してアセスメントを行い、利用者や家族等の要望に応じて、職員・医療関係者を交えて話し合い介護計画を作成している。ケアカンファレンスへの家族等の参加も呼びかけを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>普段の様子等は個人記録に記入し、特記事項となる項目では、カンファレンスシートを利用し、情報共有が出来る様考慮している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>受診の送迎など、その時々家族の状況や本人の状況に合わせた対応を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の護相談員、喫茶、唄体操、清掃等ボランティア資源を受け入れ、より豊かな暮らしを楽しんでもらえるよう支援につとめている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は希望に応じ、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者、家族などが希望するかかりつけ医や必要な専門医を受診し、適切な医療が受けられるように支援している。受診は原則家族同行となっているが、必要時には職員や看護師が同行している。また、法人内の診療所から週一回の往診と歯科の訪問診療がある。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>平日は、朝の申し送りにて状態報告を行っている。その他に関しては、随時報告・連絡・相談を行っている。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に出向き、情報交換の機会を設けて貰うようにしている。また、退院までの間、こまめに面会に行き、本人の状態の変化など把握できるように努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や、終末期のあり方については、変化に合わせて少しずつ早目に主治医からの説明の機会を設け家族、本人と話し合い方針を共有し、事業所で出来ることの説明を行っている。	重度化した場合や終末期ケアなどについては利用者、家族の意向を尊重し利用者中心のケアを心がけている。利用者の状態変化に合わせて、利用者、家族、主治医、職員が話し合いの場を持ち、方針を共有して必要な支援を行っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、利用者の急変や事故発生時に備えての勉強会やマニュアルの振り返りを行い、応急手当や救急対応への実践力が身につく様努めている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に定期的に避難訓練を行い、安全に利用者が避難出来る様努めている。また今後地域の防災訓練への参加や家族会の協力を得ながら協力体制強化を築いていく予定である。	年2回の避難訓練を実施している。地域の消防団と協力体制を築き、今秋には合同の訓練を計画している。また、運営推進会議においても災害時に地域からの協力が得られるように働きかけている。1週間分の非常食品などの備蓄を行っている。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	『介護・看護職員の援助チェックポイント』を基に、フロアの方針にも掲げ、意識するよう努めている。	「理念」や「介護・看護職員のチェックポイント」に基づいて、利用者一人ひとりの尊厳、プライバシーを損ねないような言葉使い、対応などを心掛けている。記録類は利用者、家族、部外者の目に触れないように事務室に保管している。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言いやすい雰囲気作りや、自己決定出来る様、声掛けの仕方に配慮している。		

38	<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>出来る限り希望にそえるよう努めている。</p>		
39	<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>基本的な身だしなみは、しっかり行うよう配慮している。その他、昔おしゃれが好きだった方へは、ご本人に相談したり、相談が困難な方へは、ご本人の好みに考慮して支援している。</p>		
40	<p>15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員は、補佐役に徹するよう配慮している。</p>	<p>利用者の持てる能力と希望などに合わせて、食事の準備、配膳、調理、後片付けなどを職員と一緒にしている。主菜は厨房で、ご飯、味噌汁はユニットで調理している。時には回転寿司、ホテルケーキバイキングなど楽しんでいる。一人ひとりの茶碗、箸、湯のみに名前を書いて個別に準備している。</p>	
41	<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量のチェックと必要な方へは、水分チェックも行って、状態把握に努めている。</p>		
42	<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>現在は、ナイトケア時のみの実施に留まっている。</p>		
43	<p>16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の必要性に応じて、パット類の選択を行っている。また、必要な方へはチェック表を用いて、個々の排泄パターンを知れるよう配慮している。</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを把握して、さりげなく誘導してトイレでの排泄を大切にした支援をしている。できるだけオムツ、リハビリパンツには頼らない方針である。また、個々の状況に応じて適切なパット類を選択して個別の支援にも努力している。</p>	



44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼らず、ファイバーを用いたり、牛乳やヨーグルトなどで自然排便を促せるよう努めている。		
45	17 ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間を希望される方は現在居られないが、皮膚状態や排泄の失敗等、必要に応じて入浴回数を配慮したり、ご本人のタイミングに合わせて気持ち良く入浴して頂けるように配慮している。	週2回は入浴出来るように配慮している。希望すれば毎日でも入浴出来る。入浴の拒否傾向のある人には、無理強いせず、タイミングや声かけなどで入浴を促している。また、洗髪を嫌がる人は美容院を利用する場合もある。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間ゆっくり休んで頂けるよう、生活リズム改善の為に日中の過ごし方を工夫する等、個々に応じて対応している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイリングしている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割作り、持てる力を活かせる場面作りや、好きな音楽を楽しんだり、好きな食べ物を食べるなど、個々に応じて配慮している。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り対応出来るように努めている。	職員の業務を調整して利用者一人ひとりの希望に沿えるように努めている。帰宅願望の強い方、ハイキングが趣味だった方などは中庭に出て野菜や花をみて気分転換を図ったり、車椅子で日光浴をしたり、1日に一度は外気に触れるよう支援している。また、家族や他ユニットと協力して観劇やカラオケなどに出かけている。	

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>支払い時はご自身にて行なって頂けるよう支援している。また、力に応じて、紛失の可能性はあるが、それ前提でご自身管理のお金を準備して頂くようご家族に協力を得ている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>年賀状を書いて頂く事で、年1回は必ずご家族や知人の方とのやり取りが行えるように配慮している。また、贈り物が届いた時に御礼の電話をする様声掛けをおこなったり、ご自身から希望された場合は、必要な支援を行なっている。</p>		
52 19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビやソファの位置、テレビのリフレッシュに配慮し、音楽を掛けるなど、居心地の良い空間作りに配慮している。また、庭の手入れやお正月飾り・お雛様などを一緒に飾ることで季節を感じて頂けるよう配慮している。</p>	<p>1階の玄関の回りには季節の草花を植えたプランターが置かれている。居間のソファとテーブルの配置を工夫して、テレビを見たり新聞を読んだり、会話を楽しんだり寛げる空間になっている。行事の記念写真や季節の飾り物を飾ったり、花を生けたりして家庭的な雰囲気作りに努めている。また、中庭を整備して野菜作りや散歩が楽しめる気分転換の場になっている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>基本的には、ご本人が選ばれた場所が居心地良い場所としており、</p>		
54 20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人が心地よく過ごせるよう、ご本人とご家族が相談しながら配置を決められ、変更が必要な場合には、その都度相談している。</p>	<p>居室の床は基本的にはフローリングであるが、好みの絨毯を敷いたり、窓にも好きな色、柄のカーテンを掛けてその人らしい居室作りをしている。整理ダンス、仏壇、お茶道具、家族写真など使い慣れた馴染みのものに囲まれて居心地よく過ごせるように配慮している。</p>	
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室での転倒の可能性がある方は、カーペットを敷いたり、家具の配置を広く取って、転倒しても当たる物が少ないよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況（2階そよかぜ）	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針会議を通じて、ホームとしての理念に基づいた支援・取り組みが出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ホーム行事に招いたり地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する協力依頼など、間接的サービス向上に運営推進会議を活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	吹田市の連絡部会を通じて、市の担当者と日頃から連絡を取り、関係づくりに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践について学ぶ機会を通して取り組んでいる。		

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な勉強会を通して学んだり、日頃のケアの中で見過ごされる事が絶対ないように啓発に努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容に関しては、きっちりと説明を行い納得が得れるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望が日頃から話易い関係に努め、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>主任会議・毎月のフロア一会議を開き、その場で意見や提案を出してもらい話し合いを通し、日常の運営に反映されるよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個別の面談を通じ、その時々の職員の抱える課題・問題に耳を傾けている。そのうえで個々にあった、提案・助言を心掛けている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内・外部両方の研修の情報を提供に、積極的に参加するよう促している。</p>	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡部会を通じて、情報交換を行いネットワークづくりに努めている。また、2010年度は学習会を行う予定。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者の気持ちの安心を保つため、家族の面会が多くなるように声掛けを行っている。利用者、家族、職員が話がしやすい関係である為に、面会時には最近のご様子を伝えるようにしている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>積極的な声掛けを行い、家族から職員に話しかけやすい関係を作るように心掛けている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>生活歴の聞き取りを入居時に行っている。利用者のこれまでの生活を知ること、会話が取れやすく、その会話から望まれていることを拾い上げれるようにしている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食事は利用者と共に取り、生活援助もプライバシーや羞恥心に気をつけ、なるべくは利用者の見える位置で行うようにしている。施設から離れる機会を増やし、散歩等で個別に関われる機会を増やしている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>個々での生活の目的は、在宅援助の延長である事を忘れないようにしている。職員はプロとして、一緒に利用者のケアを考え、報告をこまめに行うようにしている。記録も状況が見えるものになる様に行っている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設だからと凝り固まらず、常に本人にとって当たり前の生活を考えている。希望に沿って外出などに対応出来る様にしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入るべき口論やトラブルにはすぐに気がつけるように側に入れるような業務体制をとっている。また良い関係についても、それが長続きするように時には職員も交えて交流していただけるようにしている。それらの関係を家族にも理解していただけるように伝える		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に数回面会に行ったり、年賀状等を通じて切れない関係に努めている。		

### III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	強要せず、本人の流れに合わせたケアを考えるようにしている。必要な生活援助（入浴、排泄）は、その日の体調に合わせて対応出来る様に職員間の声掛けを行い、職員の動きも流動的にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	入居時の生活歴の把握。また関わりの中で聞こえた声や、気がついたしぐさなどは、記録に残すようにして、全職員が把握出来る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居してからの様子や、表情、体系、参加してきた行事などで取った写真を、アルバムに整理し、誰でもが見れるようにし、これまでの流れがわかりやすく物にしている。		



26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>記録を大切、丁寧に行い、読み返ることで、その時の状況がわかるようにし、ケアプラン作成時に、それが反映出来る様にしている。カンファレンスの内容や要望を書けるようにノートを連絡帳とは別に使用している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>細かな記録を行っている。しかし長くなりすぎ要点がわかりにくいこともある為、適切な記録内容を職員間で学ぶ課題がある。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>記録とは別に個人の連絡帳があり、直接ケアに関わらない希望や、家族とのやり取りを残し、職員が利用者、家族の気持ちを知っておけるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアとの関わりを利用者以外にも職員も関わりを深めて深めていきたいと思っている。傾聴ボランティアでは、顔なじみの関係作りに取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診に関しては家族との話し合いを行い、家族の付き添いが基本として行っている。その為家族の納得のもと、受診している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>情報の共有を行えるように、個々の状況以外にも不安なことなども事前に伝えるようにしている。</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の入院時は、ホームの看護職員と協力の上、情報提供を行い、出来るだけ早期の退院にむけて病院関係者との情報交換や相談に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>会議では、利用者本人の気持ちを中心に考えることを大切にしているが、これからの重度化に応じた介護技術や、予測する知識に関して、職員全体の向上が必要である。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>学習会などの参加。参考資料の参照は行っている。実際に緊急の対応をした職員が少なく、機会も少ない為、場面に遭遇した際に適切な処置が行えるかは不安が残る。今後も、学びを振り返り、繰り返し確認を行っていくことが必要と思われる。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>訓練は行っているが、全職員が参加しておらず、今後はその実践を伝えていくことが求められる。</p>		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本当は自分でしたいという気持ちを忘れずに、ケアの際、声掛けには注意している。居室訪問の際も必ず声をかけ、了解を得てから行う。夜間も必要に応じて、聴取対応するなどしている。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員はケアにあたる際「待てる」気持ちに余裕を持って対応している。</p>		

38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の忙しさを優先しがちな時がある。その時は、職員間で声掛けを行い、時間を作れるように努力している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着替えを行っている。家族への声掛けを行い、季節に合わせた衣類で過ごしていただけるようにしている。		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	必ずではないが、見えるところで準備をしている。準備等を一緒に出来る利用者に偏ってしまいがちである為、その利用者からの不満も見られる。今後は協働の進め方も工夫が必要。食事の配膳のタイミングも検討が必要。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲み込み難くなっている利用者に関しては厨房の協力を得てゼリーなどの提供をしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日常では、ケアの必要な方には、介助を行っている。また定期的な歯科往診を入れ、観察を行っている。現在ご自分でされている方に対しての、実施状況の観察援助も必要となる。		
43	16 ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自立に向けた援助よりも、出来ない事を補う援助になっていると思われる。介助を拒否される方の清潔を保つ対応に現在は苦難している為、利用者が負担に感じない援助のタイミングを見つける情報交換をしている。		

44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘者が増えている。薬や座薬だけに頼らない対策を考えている。また利用者の便意に気がつけるように行動や表情が見える位置に入れるようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりの好みや、嫌な理由などに合わせて勧め方の工夫をしている。また体調に合わせて安全に入浴して頂けるように、温度や時間等に注意を払っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有のフロアで傾眠が見られる際は声をかけ臥床を進める。居室、リビング以外でも落ち着ける空間を作る検討がされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ジェネリック医薬品が入るようになり新しい名前が増え、現在学習中である。また、薬の把握するためのツールとして表を作成し、変更等に対応出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理のない役割の提供を心掛けている。食事の準備等では役割と位置づけず、ご自分から声を掛けて下さるような、空間になるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常での外出、散歩は希望時など、職員の業務分担をし、対応出来る様になっている。職員が忙しいと感じる時間帯などに当たったときは、約束をするなどしてかなえるようにしている。遠出に関しては、安全に配慮下上で実現出来る様になっている。		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人で管理されている方もおられる。援助が必要な方が多い為、預かり管理している。家族とのやり取りを行いながら、日常品も利用者と買い物に行って購入するなど、利用者の希望にあわせてられている。、</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>多くはないが、希望があれば援助行なう。こちらから、必要の有無を確認する事がないため、実際の利用者の思いを聞き出せてはいない。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テレビの音が大きく感じられる方と、聞こえない方とおられ、その調整に注意している。両者の思いをかなえる為、食事の時はテレビを消し、職員が調整できる機会を作っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食事の席は、毎日の中で固定されている。食堂以外でも、時には日当たりが良い場所で食事がいただけるようにエレベーターホールにもイスを設置している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>できている。しかし、施設入居のことを理解できず、帰宅願望のある方に関しては、最低限のものになっており、本氏の理解状況に応じて配置している。また、タンス内の整理は、家族だけに任せず、日頃の洗濯時に整理の手伝いを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>車椅子の方に対しては食事やくつろぎの時には車椅子からイスの移動を進めている。しかし、体勢が保てず不安定な時がある為、見守り、付き添いが必要な時がある。安全なくつろぎの為職員間の注意の統一が必要となっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられれている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況（3階ひだまり）	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	方針会議を通じて、ホームとしての理念に基づいた支援・取り組みが出来るよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加したり、ホーム行事に招いたり地域との交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方から、講演会依頼や、施設見学要望がある時には、進んで引き受けるようホームとして取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災に関する協力依頼など、間接的サービス向上に運営推進会議を活用している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	吹田市の連絡部会を通じて、市の担当者と日頃から連絡を取り、関係づくりに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアの実践について学ぶ機会を通して取り組んでいる。		



7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な勉強会を通して学んだり、日頃のケアの中で見過ごされる事が絶対ないように啓発に努めている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>個々の必要性が生じた時には関係者と話し合い、活用できるよう支援している。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約内容に関しては、きちんと説明を行い納得が得れるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見、要望が日頃から話易い関係に努め、必要が生じた時の連絡先を表示するなどして、健全な運営の反映に努めている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>主任会議・毎月のフロアー会議を開き、その場で意見や提案を出してもらい話し合いを通し、日常の運営に反映されるよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>個別の面談を通じ、その時々職員の抱える課題・問題に耳を傾けている。そのうえで個々にあった、提案・助言を心掛けている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内・外部両方の研修の情報を提供に、積極的に参加するよう促している。</p>	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>連絡部会を通じて、情報交換を行いネットワークづくりに努めている。また、2010年度は学習会を行う予定。</p>		
<b>m</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>介護計画の立案時、更新時には必ず本人の思いが聞き取れるよう時間をとり、より安心していただける努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人同様、思いが十分伝えにくい本人の代弁者としての家族の要望にしっかり耳を傾け、安心して暮らせる為の関係づくりに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人、家族の状態をしっかりアセスメントすることにより、必要なサービスとケアに努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>暮らしを共にするという視点を大切にしながら、職員も困りごとを相談したり、意見を聞いたりして、人生の先輩として敬う姿勢が築けている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人を共に支える良い関係作りのため、日頃の面会時や行事等の時間を大切にするよう努めている。</p>		

20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の言葉に、耳を良く傾け、大切な馴染みの人や物との関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格、思いを良く見極め、係わり合いが円滑に行われ、馴染みの関係となれるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年に数回面会に行ったり、年賀状等を通じて切れない関係に努めている。		

**III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント**

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの色々な場面を通して、思いや希望が話しやすい様な言葉掛けを心がけ、意向の把握に努めている。困難な場合もあるので、日頃の様子から本人の立場での検討に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	新しい入居者に対して、今までの暮らし方、生活環境について出来るだけ詳しく聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方のペースを尊重し、心身の状態に合わせた個別ケアを行う中で現状の把握に努めている。		

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日頃のチームケアを通して、スタッフ、本人、家族、医療関係者の意見を、本人が寄りよく暮らす為の課題に集約して、できるだけ現状に即した計画となる様努めている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護計画の見直しの際、個別記録に記入された日々の様子やケアの実践、気づき、工夫、その結果等を参考にして活かす様心掛けている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や、家族の生活状況の把握にも努めながら、その時々ニーズにできるだけ合わせ、話し合いを通して柔軟な支援に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の護相談員、喫茶、唄体操、清掃等ボランティア資源を受け入れ、より豊かな暮らしを楽しんでもらえるよう支援につとめている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診が必要な状態と判断されたり、本人、家族の希望時など、かかりつけ医や必要な専門医に受診、そのつど適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>日常のケア、特に入浴介助等での気づきや、病状の変化を速やかに看護職員に伝え相談し、必要な処置や適切な受診が出来る様支援している。</p>		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時は、ホームの看護職員と協力の上、情報提供を行い、出来るだけ早期の退院にむけて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化や、終末期のあり方については、変化に合わせて少しずつ早目に主治医からの説明の機会を設け家族、本人と話し合い方針を共有し、事業所で出来ることの説明を行っている。		
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から、利用者の急変や事故発生時に備えての勉強会やマニュアルの振り返りを行い、応急手当や救急対応への実践力が身につく様努めている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員を対象に定期的に避難訓練を行い、安全に利用者が避難出来る様努めている。また今後地域の防災訓練への参加や家族会の協力を得ながら協力体制強化を築いていく予定である。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの姿、言葉に耳をかたむけ、暖かく丁寧な支援を心掛けている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のあらゆる場面で、利用者の思いや希望が聞ける言葉掛けを行っている。		

38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの日々の体調やペースを大切にしながら、できるだけ希望に沿った支援を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>身につける衣類や、外出時の持ち物など、できるだけ本人と話し合い決めるようにしている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者と一緒に、それぞれの能力や希望に合わせて食事の準備、調理、後片付けを分担して行っている。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの、状態や好み、習慣に合わせた食事が取れる様支援しながら、食事量、水分量確保にも注意している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、あるいは寝る前に本人の力に応じた口腔ケアが出来る様支援したり、定期的歯科往診を利用し、良好な口腔状態が保てる様に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの力や、習慣を良く見ながら排泄パターンをつかみトイレでの排泄を大切に支援をおこなっている。</p>		

44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のメカニズムを学び、理解のうえ個々に応じた、薬のみに頼らない排便コントロール心がけ予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や体調、その時々々のタイミングで個々に応じた入浴を楽しめるような支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの今までの習慣、その時々々の状況、前日の睡眠時間等考慮し、安心して休息したり、安眠できる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療関係者と協力し、用法用量の理解のうえ確実な服薬支援に努め、症状の変化の確認も行うようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしさを大切に、張り合い喜び多い毎日の創造を目指した生活支援をおこなっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にできるだけ添えるようその日その日の調整を行い戸外に出かけられるよう支援に努めたり、普段はなかなか行けないところでも、職員、家族と協力体制を整えることで実現を目指している。		

50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や力に応じてお金を持って使えるよう支援に努めている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>一人ひとりの、家族や大切な人への思いをくみとり、電話や手紙等を通して思いが通じるような支援に努めている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居心地のよい、不快な刺激のできるだけ少ない落ち着いた共用空間作りを行うよう配慮している。普通の家のお雰囲気や、季節感を大切に生け花を絶やさないようにしている。</p>		
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりの思いを大切に、共用空間の中でも独りになったり、好きな場所で気のあった者同士でゆっくりできる居場所の工夫も行っている。</p>		
54	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人、家族と相談しながら、居室は必ず使い慣れた物や好みの物でそろえ、居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>		
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりの能力を勘案の上、安全を考えつつ、できるだけ自由に生活出来る様工夫している。</p>		



V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない

62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない